

保育所における異年齢保育と保育実習指導の実態

A Report on Actual Condition of Childcare in a Class Consisting of Children of Different Ages and Guidance of Apprentices in Nursery School

坪井 敏 純
Toshisumi Tsuboi

鹿児島女子短期大学

保育所実習に参加した本学の学生に対して、アンケート調査を行った。調査項目は実習園における異年齢保育の実施状況とクラス編成、及び異年齢保育についての実習指導の実態である。実習園全体では、53.5%が年齢別クラス編成を行っており、完全に異年齢クラス編成を行っている園は9.9%、年齢別異年齢クラスが混在している園は42.2%であった。異年齢クラス編成を取り入れている園では異年齢保育に対する評価は肯定的意見が50%を超えるものの、どちらともいえないという意見が35.5%もあり、積極的な取り組みだけではなさそうである。さらに異年齢クラスで担当保育を行った学生は、実習生全体としては15.1%であった。問題は実習生に対して異年齢クラス編成や異年齢保育について、説明がなかった園が50%を超えており、実習が異年齢保育を学ぶ機会であることからすれば、残念な結果といえる。

キーワード：異年齢保育、クラス編成、保育所、保育実習、鹿児島県

1. はじめに

本研究の目的は、鹿児島県の保育所における異年齢保育の実施状況と、本学の実習生に対する指導の実態を報告するものである。

保育所は幼稚園と違い、制度上はクラスという概念はない。あるのは配置される保育士一人当たりの乳幼児数が定められているだけである。ただ保育を実施するにあたり、同年齢の乳幼児を集めてクラスを作る同年齢クラスの編成が行われることが多い。それは集団保育が大前提であり、発達段階の近い乳幼児を集めて保育することは保育計画が立てやすく、保育の効率性も高いと考えられるからである。

しかし、少子化に伴う園児数の減少によって、従来のような年齢別クラス編成が難しくなっており、異年齢のクラスを編成せざるを得ない状況にある園が増加している。逆に異年齢保育の必要性・重要性をうたえて、あえて異年齢クラス編成に取り組む園も少なくない。特に保育所の場合は保育所保育指針の解説¹⁾において、「異年齢の編成による保育の指導計画」で次のような重要性と留意事項を上げている。

- (1) 「自分より年上、年下の子どもと交流する体験を持つことで、同一年齢の保育では得られない諸側面の育ちが期待される」
- (2) 「自分より年下の子どもへのいたわりや思いやりの気持ちを感じたり、年上の子どもに対して活動のモデ

ルとしてあこがれを持つたりするなど、子どもたちが互いに育ちあうことが大切です」

ただし、留意点として次のような事項を上げている。

- (1) 「子どもの発達差が大きいと、個々の子どもの状態を把握した上で保育のねらいや内容を明確に持った適切な環境構成や援助が必要です。こうした配慮により、遊びが充実したものになり、子ども同士での多様な関わりがくり広げられるようになるのです」
- (2) 「保育士等の意図性が強くなると、子どもが負担感を感じることも考えられます。日常的な生活の中で、子ども同士が自ら関係をつくり、遊びを展開していけるように十分に配慮します。」

一方、幼稚園教育要領解説²⁾では、次のような指摘がある。

「特に近年、家庭や地域において幼児が兄弟姉妹や近隣の幼児とかかわる機会が減少していることを踏まえると、幼稚園において、同年齢や異年齢の幼児同士が相互にかかわり合い、生活することの意義は大きい」

いずれも、少子化による異年齢関係の経験の少なさが、仲間関係の縮小や偏りを産み出し、子どもたちの育ち合いという経験を失わせているという認識で一致している。そのため、年齢別保育という保育形態・方法にこだわることなく、異年齢保育への積極的な取り組みが望まれている。しかしながら、保育士養成のためのテキスト類には、その重要性は指摘しているが、異年齢保育の保育方法に関わる

記述はあまり見られない。つまり異年齢保育の保育形態について学ぶ機会が少ないのである。

最近、異年齢保育に関する書籍が発刊されるようにはなっていないが、年齢別保育に慣れてしまった保育者は、発想の転換が難しいようである。例えば、一斉保育・設定保育の保育形態が効率的で手間がかからない（一番良い方法）、教える側と教わる側という方向性が当たり前、ただ遊んでいても何も学ばない、そしてなによりも、育ち合うという保育が見えにくく、時間がかかることや異年齢保育の方法がわからないという問題がある。またもうひとつの問題として、園児数の変化で常に同じ異年齢クラス編成が出来るとはかぎらないことが、ひとつの園で生じることがある点も無視できない。

加えて、クラス編成による異年齢保育だけでなく、預かり保育や延長保育などは年齢別保育が実施できないため、異年齢保育の形態で保育することになる。その意味でも、異年齢保育はほとんどの園で取り組むべきものと思われる。従って保育士養成課程における学習内容として、異年齢保育に関わる内容を充実させ、実習指導にも生かしていかなければならないためには、現場の実態を把握する必要がある。

2. 目的

本研究は鹿児島県における異年齢保育の実施実態の把握と、実習生に対する異年齢保育の指導の実態を明らかにしようというものである。上述したように、異年齢保育について授業で取り上げるためには、その実態把握が必要である。そのため、まず鹿児島県における異年齢保育の実施状況をクラス編成の点から把握し、異年齢保育に対する保育所の姿勢や、実習生が保育所実習中に異年齢保育を経験しているのかどうか、その際の保育所の指導内容はどのようなものかを明らかにして、実習指導及び授業の改善に取り組むことを目的として、本研究は行われた。

3. 方法

保育所実習に参加した学生にアンケート調査を行った。調査時期は2013年10月中旬で、授業中に調査用紙を配布し、1週間以内に回収した。回収率は77.1%であった（172人/223人）。

本学では保育実習の中で保育所実習Ⅰ・Ⅱが実施されているが、クラス編成については保育所実習Ⅱの時期のものを回答させた。その理由は保育所実習Ⅰの時期が2月であり、年度内でのクラス編成の変化がある可能性があるため、影響の少ない8月実施の保育所実習Ⅱを調査対象とした。また、ひとつの自由記述以外は全てマークシートで行った。

質問内容は、大きく分けて、次の4つである（詳しくは

アンケート用紙参照）。

- ①クラス編成の方法
- ②クラスの年齢構成
- ③異年齢保育に関する実習先での指導
- ④異年齢のクラス編成を行っている実習園の取り組み姿勢

4. 結果と考察

同じ実習園に複数の学生が配当されている場合があるが、実際に学生が経験した割合を重視したことと、実習園での指導が異なっている可能性もあるため、回答学生数を総数としており、従って件数は実習園数ではない。

(1) 保育所全体のクラス編成

表1は保育所全体のクラス編成の形態である。異年齢クラス編成とは、すべてのクラスの園児が同年齢ではなく、異なる年齢の園児によって構成されているもので、年度内での生まれ月によって年齢差が出る場合は含まない。混合クラス編成とは、異年齢クラスと同年齢クラスが混在している場合を指す。例えば、1・2歳児は同じクラスで保育が行われ、3歳児は単独のクラスになっているような場合である。

表1によれば半数以上の学生が年齢別クラス編成の保育所で実習している。異年齢クラス編成と混合クラス編成を合わせると35.2%になり、3分の1の学生が異年齢クラス

表1 園全体のクラス編成

	件数	%
年齢別	92	53.5
異年齢	17	9.9
混合	59	34.3
不明	4	2.3
合計	172	100

がある保育所で実習を行っていることがわかる。

表2は、混合クラス編成が行われている保育所で、子どもの年齢との関係を表したものである。3歳未満を異年齢クラス編成にしている保育所が35.6%、3歳以上で異年齢クラス編成を行っている保育所が22.0%、特に限定されていない（特別な方針がない）保育所が22.0%であった。混合クラス編成の場合は、3歳児以上よりも、3歳未満の0・

表2 混合クラス編成のうち年齢による年齢の限定の有無

編成の種類	件数	%
3歳未満	21	35.6
3歳以上	13	22.0
限定しない	13	22.0
不明	10	17.0
その他	2	3.4
合計	59	100

1・2歳児が異年齢クラス編成を取り入れている園が多く、3分1以上の保育所で行われている。

(2) 異年齢編成のクラス構成

表3は異年齢保育を行っている保育所のクラス構成を示したものである。異年齢クラス編成を行っている保育所の大きな特徴は、混合クラス編成と比べて、3・4・5歳児が同じクラスに配置されている割合が多いという点と低年齢児は同年齢クラスが少ないという点である。これは園児数の少なさが主な原因であることは、次の表4から推測できる。

表3 編成別のクラスの年齢構成

年齢構成	異年齢 クラス編成		混合 クラス編成	
	件数	%	件数	%
0			22	37.3
1			15	25.4
2			35	59.3
3			33	55.9
4			19	32.2
5			28	47.5
0・1	9	64.3	37	62.7
0・1・2	4	28.6	0	0.0
0・1・2・3	0	0.0	0	0.0
1・2	7	50.0	20	33.9
1・2・3	0	0.0	0	0.0
2・3	8	57.1	10	16.9
2・3・4	0	0.0	0	0.0
3・4	2	14.3	13	22.0
3・4・5	8	57.1	12	20.3
4・5	6	42.9	24	40.7
その他	0	0.0	1	1.6

表4は「3・4・5歳児」の異年齢クラスがある保育所のクラス構成を示したものである。0・1歳児（52.6%）と1・2歳児（42.1%）の混合クラスの割合が多いことから、年齢別にクラス編成をするには園児数が少ないことが推測できる。表3では混合クラス編成の特徴は、「4・5歳児」が多く（40.7%）、「0・1歳児」の割合が62.7%と高い。逆に2歳児（59.3%）と3歳児（55.9%）は年齢別クラス編成の割合が高い。おそらくこのクラス構成が混合クラス構成の典型的なパターンではないだろうか。

(3) 生活と遊び

表5に示されるように異年齢クラス編成をしても、遊び（一般には設定保育あるいは一斉保育）を年齢別に分けて行うケースも見られるが、異年齢クラス編成と混合クラス編成では生活と遊びを分けず年齢別保育を日常的には取り入れていない割合が高く、混合クラス編成では60%近い。

表4 3・4・5歳児クラスのある保育所のクラス構成

年齢構成	件数	%
0	5	26.3
1	3	15.8
2	6	31.6
3	0	0.0
4	0	0.0
5	0	0.0
0・1	10	52.6
0・1・2	3	15.8
0・1・2・3	0	0.0
1・2	8	42.1
1・2・3	0	0.0
2・3	3	15.8
2・3・4	0	0.0
3・4	1	5.3
3・4・5	19	100
その他	1	5.3

表5 クラス編成の方針

分離の方針	異年齢クラス		混合クラス	
	件数	%	件数	%
生活と遊び分けない	6	35.3	35	59.3
生活と遊び分ける	4	23.5	3	5.1
3歳未満で分ける	3	17.6	9	15.3
3歳以上で分ける	2	11.8	5	8.5
不明	2	11.8	8	13.6

遊びと生活を分けない園と分ける園のクラス構成の違いを示したものが表6である。分けない園の特徴は、明らかに年齢別のクラス編成の割合が高く、当然分ける必要がないことが分かる。

表6 遊びと生活の分離；（）は件数

年齢構成	分けない(43)		分ける(8)	
	件数	%	件数	%
0	15	34.9	2	25.0
1	11	25.6	0	0.0
2	22	51.2	1	12.5
3	23	53.5	1	12.5
4	11	25.6	2	25.0
5	18	41.9	2	25.0
0・1	26	60.5	6	75.0
0・1・2	2	4.7	1	12.5
0・1・2・3	0	0.0	0	0.0
1・2	15	34.9	4	50.0
1・2・3	0	0.0	0	0.0
2・3	10	23.3	3	37.5
2・3・4	0	0.0	0	0.0
3・4	10	23.3	1	12.5
3・4・5	8	18.6	5	62.5
4・5	20	46.5	1	12.5
その他	1	2.3	0	0.0

(4) 異年齢クラスでの担当保育

表7は、実習生が担当保育を行った保育所のクラス編成である。異年齢クラス編成の保育所では9人(52.9%)、混合クラス編成では17人(28.8%)が異年齢クラスでの担当保育を経験している。異年齢保育のクラス編成を行っている園であるにもかかわらず、半数しか異年齢クラスでの担当保育を行っていないのは、遊びと生活を分けている場合やモンテッソリー保育を行っている園の中には、午後からの活動が年齢別の場合が有り、その時間を担当するというものである。そのため異年齢クラス編成でも担当保育は年齢別になる場合がある。

表7 異年齢クラスで担当保育を経験した保育園のクラス編成；()は件数

	担当した人数	各編成内での割合
異年齢クラス編成(17)	9	52.9
混合クラス編成(59)	17	28.8

表8は担当保育で異年齢クラスの保育をした園としなかった園のクラス構成である。担当保育なしの園では年齢別クラスの多いことがわかる。混合クラス編成の園では、異年齢クラスでの担当を避けている様子が推測される。

表8 担当保育の経験とクラスの年齢構成；()件数

年齢構成	担当保育(27)		担当保育なし(51)	
	件数	%	件数	%
0	11	40.7	17	33.3
1	6	22.2	14	27.5
2	7	25.9	32	62.7
3	13	48.1	24	47.1
4	5	18.5	18	35.3
5	7	25.9	24	47.1
0・1	14	51.9	31	60.8
0・1・2	3	11.1	1	2.0
0・1・2・3	0	0.0	0	0.0
1・2	13	48.1	13	25.5
1・2・3	0	0.0	0	0.0
2・3	10	37.0	8	15.7
2・3・4	0	0.0	0	0.0
3・4	5	18.5	10	19.6
3・4・5	4	14.8	15	29.4
4・5	17	63.0	13	25.5
その他	1	3.7	1	2.0

(5) 異年齢保育に対する取り組み

① クラス編成についての説明の有無

表9は、異年齢のクラス編成の理由について説明があったかどうかをクラス編成の種類ごとと、保育を担当した学生への説明の有無を示したものである。どちらのクラ

ス編成でも60%近くが説明を行っていない。さらに問題は、異年齢クラスの保育を担当する学生に対して、異年齢クラス編成に関する説明が無い割合が50%を超えていることである。

表9 クラス編成及び担当保育と説明の関係；()は件数

説明の程度	異年齢クラス(17)		混合クラス(59)		担当保育(27)	
	件数	%	件数	%	件数	%
説明有り	0	0.0	8	13.6	4	14.8
少し説明	3	17.6	14	23.7	5	18.5
触れた程度	0	0.0	10	16.9	2	7.4
説明なし	10	58.8	25	42.4	15	55.6

② 異年齢クラス編成に対する評価

表10は、その園が異年齢クラス編成に対して、その態度が肯定的か否定的かについて尋ねた結果である。どちらのクラス編成においても「やや肯定的」を入れると肯定的意見が多いものの、異年齢クラス編成では30%近くが「どちらでもない」と応えており、混合クラス編成では「どちらでもない」が三分の一を超える。異年齢クラス編成に対する態度は、園によっては積極的な取り組みとは必ずしも言えないようである。

表10 クラス編成と異年齢保育への評価、及び担当保育を行った園の異年齢保育への評価

評価	異年齢クラス		混合クラス		担当保育	
	件数	%	件数	%	件数	%
否定的	1	5.9	2	3.4	1	3.7
やや否定的	0	0.0	4	6.8	0	0.0
どちらでもない	5	29.4	22	37.3	10	37.0
やや肯定的	5	29.4	11	18.6	9	33.3
肯定的	4	23.5	23	39.0	8	29.6

③ 異年齢保育の保育方針や方法についての説明

表11は、実習指導者が異年齢保育を担当する学生に対して、そのクラスの保育方針あるいは保育方法について説明が行われたかどうかを尋ねたものである。その結果、三分の二の実習生が、全くどのように保育を進めるかについて説明がないまま保育を行っている。

異年齢保育を行うためにはその特徴を生かした保育が求められるが、しかし異年齢保育に対する肯定的意見は多いものの、それではどのような方法で保育を行うかについては、実習生に伝わっておらず、せっかくの学ぶ機会が生かされないままになっているようである。

④ 異年齢クラス編成に対する肯定的評価の園と否定的評価の園の違いについて

表12は肯定的評価園と否定的評価園のクラス構成を示したものである。肯定的園は否定的園と比べて、年齢別クラスが少なく、4・5歳児の異年齢クラスの割合が多

表11 クラス編成及び担当保育と異年齢保育の説明の有無

説明の程度	異年齢クラス		混合クラス		担当保育	
	件数	%	件数	%	件数	%
説明有り	1	5.0	2	3.4	3	11.1
少し説明	4	23.5	16	27.1	4	14.8
触れた程度	0	0.0	3	5.1	1	3.7
説明なし	9	52.9	34	57.6	18	66.7

い。異年齢保育を実施することで、その効果を経験していることによる影響と考えられる。

表12 異年齢保育の評価とクラス構成

年齢構成	肯定的評価園		否定的評価園	
	件数	%	件数	%
0	18	36.7	11	34.4
1	12	24.5	9	28.1
2	24	49.0	17	53.1
3	21	42.9	17	53.1
4	11	22.4	13	40.6
5	16	32.7	16	50.0
0・1	28	57.1	18	56.3
0・1・2	1	2.0	3	9.4
0・1・2・3	0	0.0	0	0.0
1・2	18	36.7	9	28.1
1・2・3	0	0.0	0	0.0
2・3	10	20.4	8	25.0
2・3・4	0	0.0	0	0.0
3・4	9	18.4	6	18.8
3・4・5	16	32.7	5	15.6
4・5	20	40.8	10	31.3

表13は異年齢のクラス編成について、その理由の説明があったかどうかの回答結果である。肯定的園の説明があった割合は否定的園より多いもののわずか16%程度で、説明がない割合は否定的園とほぼ同じ割合で40%を超えている。おそらく説明があった園では、積極的な取り組みをしており、その説明が行われたものと推測されるが、表12からも推測できるように、園児数の少なさが、異年齢クラスを編成する原因となっている場合には、積極的にその理由を説明する必要がないのであろう。

表13 異年齢クラス編成の説明

説明の程度	肯定的評価園		否定的評価園	
	人数	%	人数	%
説明有り	8	16.3	2	6.3
少し説明	10	20.4	7	21.9
触れた程度	6	12.2	5	15.6
説明なし	21	42.9	15	46.9

次に、表14は異年齢保育を実施している園で、その保育について方法や方針に関する説明があったかどうかの回答結果である。肯定的な園でさえも、説明はほとんど

行われていない。全く説明しないという園は否定的評価園の方が割合は高いものの、肯定的評価園でさえも49%という半数が説明をしていない。異年齢保育を肯定的に捉えている園でも、実施の保育についてその方針を半数の園児が説明を受けていない。これでは異年齢保育がどのような保育を目指しているのかを学ぶことはできない。実際、実習生にとってどのような保育をして良いのかわからないのではないだろうか。

表14 異年齢クラスの保育方針について

説明の程度	肯定的評価園		否定的評価園	
	人数	%	人数	%
説明有り	2	4.1	2	6.3
少し説明	15	30.6	6	18.8
触れた程度	3	6.1	0	0.0
説明なし	24	49.0	22	68.8

保育所保育指針でも異年齢保育の重要性には言及しているものの、現場におけるその形態は様々である。特に園児数の減少によってやむを得ず異年齢クラス編成になってしまった保育所では、明確な指導法や保育方針を持たない保育所が少なくないのではないだろうか。

5. まとめ

保育所実習において53.6%が年齢別のクラス編成を行っている保育所で実習しており、44.2%が異年齢のクラス編成を行っている園で実習をしている。ただしすべてのクラスが異年齢クラスである園は少なく、34.3%が異年齢クラスと年齢別クラスの混合編成である。混合編成では4・5歳児の異年齢のクラスが多く、また「0・1」歳児のクラスが62.7%と高い割合を示している。

異年齢クラス編成をしている保育園が17園と少ないため、明確な結論は出しにくい。3・4・5歳児のクラスが57.1%で、混合クラスと20.3%と比べるとかなり高い割合である。また2・3歳児クラスも異年齢クラス編成の園では57.1%で、混合クラス編成の16.9%よりかなり高い。このような点から異年齢クラス編成を行っている園では、基本的に園児数が少ないためにやむを得ず行っていると推測される。しかし、その結果として、異年齢保育への肯定的な意見が50%を超えて、否定的な保育所はわずか10%程度である。ただ「どちらともいえない」という評価も混合クラス編成では3割を超えている。その理由は年齢別保育をよしとする意見だけでなく、クラス編成の流動性や職員配置の難しさ、あるいは保育方法に慣れていない（わからない）といった原因も考えられる。いずれにしても、これまでの旧態依然とした年齢別保育にこだわらず、子どもたちが育つ場所としての保育所に対して新しい保育理念や保育観が求められているのではないだろうか。

このような異年齢保育に対して、保育実習生の指導を調査した結果、45%弱が異年齢クラス編成を取り入れている保育所で実習を行っている。さらに全回答者（172名）のうち15.1%弱の学生は異年齢クラスでの保育で担当保育を行っている。ところが異年齢保育クラスで担当保育を行っている学生のうち70%はそのクラスの保育方針（保育方法）について全く説明されていない。保育士養成校の学生の多くはおそらく年齢別保育を想定した保育を学んでいると思われるため、異年齢のクラスに入った時に、保育方針が示されず、さらに具体的な指導・援助の方法を教わらない状態で実習が行われているとすれば、せっかくの異年齢保育を学ぶ機会を失っていることになる。

特に鹿児島県のように多くの過疎地を抱えている地方では小規模の保育所が多く、少子化が進む中で、異年齢保育は特別な保育形態ではなく、日常的な保育として実施されている点を踏まえれば、もっと積極的な取り組みが求められるであろう。

引用文献

- 1) 幼稚園教育要領解説 2008 文部科学省, フレーベル館
- 2) 保育所保育指針解説 2008 厚生労働省, フレーベル館

<資料 アンケート用紙>

実習先の保育所のクラス編成について、お尋ねします。

1. 実習園名 _____
2. 実習園のクラス編成について
シート番号(1) 年齢別クラス編成⇒「4」へ
シート番号(2) 異年齢クラス編成
シート番号(3) 年齢別と異年齢クラスが混在
3. 異年齢のクラス編成の状況をお答えください。「はい」の場合は「1」をマークして下さい。それ以外は無記入です。
シート番号(4) 3歳未満だけに、異年齢クラスがあった
シート番号(5) 3歳以上のクラスだけに、異年齢クラスがあった
- シート番号(6) 年齢によって決めるような方針は無いようだ
4. 実習園のクラス編成を教えてください。該当するクラスがあれば、「1」をマークして下さい。該当するクラスが無い場合は、無記入です。

シート番号(5) 0歳
シート番号(6) 1歳
シート番号(7) 2歳
シート番号(8) 3歳
シート番号(9) 4歳
シート番号(10) 5歳
シート番号(11) 0・1歳
シート番号(12) 0・1・2歳
シート番号(13) 0・1・2・3歳
シート番号(14) 1・2歳
シート番号(15) 1・2・3歳
シート番号(16) 2・3歳
シート番号(17) 2・3・4歳
シート番号(18) 3・4歳
シート番号(19) 3・4・5歳
シート番号(20) 4・5歳
シート番号(21) その他

以下は、異年齢クラス編成を行っている園で実習をした人だけにかがいます。

5. 異年齢クラスの編成だが、生活は異年齢で遊び（設定保育）は年齢別保育が行われていた
シート番号(22) 生活と遊びを分けることは無い
シート番号(23) 全クラスがそうになっていた
シート番号(24) 3歳未満児ではそうになっていた
シート番号(25) 3歳以上児はそうになっていた
6. なたは、異年齢クラスで指導案を作成して保育を担当しましたか
シート番号(26) 「はい」は「1」をマーク
7. 異年齢のクラス分けについて、その理由の説明がありましたか。該当するシート番号の「1」をマークして下さい
シート番号(27) 説明があった
シート番号(28) 説明というほどではなく、ほんの少し触れた程

度

シート番号(29) 触れたことはあったが、説明になっていなかった

シート番号(30) 説明は無かった

8. あなたの園では、異年齢クラス編成に対して、肯定的あるいは否定的などどちらの印象を受けましたか。該当するシート番号の「1」をマークして下さい

シート番号(31) 否定的

シート番号(32) どちらかというとな否定的

シート番号(33) どちらともいえない

シート番号(34) どちらかというとな肯定的

シート番号(35) 肯定的

9. 異年齢クラスの保育方針について説明がありましたか。該当するシート番号の「1」をマークして下さい

シート番号(36) 説明があった

シート番号(37) 説明というほどではなく、ほんの少し触れた程度

シート番号(38) 触れたことはあったが、説明になっていなかった

シート番号(39) 説明は無かった

<自由記述>

異年齢保育に関して、その保育方法や意義などについて、説明や指導を受けた内容を書いてください。また説明や指導ではないが、園の先生方が異年齢保育について話されたことがあれば、それを書いてください。

(2013年12月2日 受理)